

ベトレヘム学園事業報告

【定員】

本園 45 名 地域小規模 12 名 令和 3 年 3 月～令和 4 年 3 月

【年間利用状況】（月初在籍人員）＜地域小規模＞

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
未就学	7	7	8	9	9	9	10	10	10	10	10	10	109
小学生	10 <6>	10 <6>	10 <6>	10 <6>	10 <6>	11 <6>	13 <6>	13 <6>	13 <6>	13 <6>	13 <6>	13 <6>	139 <72>
中学生	7 <4>	7 <4>	6 <4>	6 <4>	6 <4>	6 <4>	6 <4>	6 <4>	6 <4>	6 <4>	6 <4>	6 <4>	74 <48>
高校生	9	8	8	8	7	7	7	7	5	6	6	6	84
その他	<2>	<2>	<2>	<2>	<2>	<2>	<2>	<2>	<2>	<2>	<2>	<2>	<24>
一時保護			1	2	3	2	1	2	2	2	1	1	17
合計	33 <12>	32 <12>	33 <12>	35 <12>	35 <12>	35 <12>	37 <12>	38 <12>	36 <12>	37 <12>	36 <12>	36 <12>	423 <144>

【施設運営状況】

①重点目標について

- ・「安全・安心で居心地の良い施設を目指す」…子どもについては、第三者評価利用者アンケートの以下の項目を、子どもの満足度の数値として達成度を図った。「ここにきて良かった」の数値は 70%以上を目指したいが、家族等への思いが強いと低くなることも考えられ、ただ高ければ良いということではないと考える。「気持ちを受け止めて尊重」の中学生以上、「要望や希望への対応」の小学生以下の数値は、来年度 70%以上を目指す。

○ここにきて良かったと思うか…「はい」小学生以下 63%、中学生以上 59%

○けがや病気の際の職員の対応は適切か…「はい」小学生以下 93%、中学生以上 88.2%

○気持ちを受け止めて尊重されているか…「はい」小学生以下 75%、中学生以上 64.7%

○要望や希望への対応は適切か…「はい」小学生以下 62.5%、中学生以上 70.6%

- ・職員に関してはアンケートを行った（回収率 80%）。その結果、64%の職員が安全で居心地が良いと答えていた。いいえの意見としては、施設内で危険な個所がある等が 6 件、遊び場の不足が 3 件、子どもの特性に対してが 6 件、職員の働き方に対してが 4 件、その他に分類したものが 5 件上がっていた。全体を通してコミュニケーションについての課題が感じられた。
- ・キャリアパスについては、見直すことができなかった。大きな変更点は無いので、分かりやすい表示と周知を目指す。
- ・東京都社会的養育推進計画について職員会議にて説明を行い、ベトレヘム学園の今後の

計画のエビデンスとして理解を促した。特に地域分散化については、グループホーム立ち上げのプロジェクトチームを設置したことと、契約には至らなかったものの不動産業者を介して土地の所有者と直接会って検討した。

②運営目標について

- ・育成面談は、6月と2月は直属の上司と、10月には施設長と行った。普段の引き継ぎとは区別した意思疎通の機会として、今後も浸透させていく。

【利用者支援状況】

支援目標について

- ・子どものやりたいことや希望を聴く時間として、就寝前や週1回曜日を決めるなど、子どもの特性等を考慮して機会を確保することに努めた。2名の子どもが新たに習い事を始めた。
- ・各ホームで挨拶することを目標にするなど、職員も意識して取り組み、来客があった時や招待行事等で積極的に挨拶できるようになってきた。
- ・子ども自治会の実施回数を増やすことは難しかったが、子どもから希望が出て計画したお泊り会を、子ども主体で1回実行することができた(10月23~24日)。

- ・入所 7名
- ・退所 <家庭復帰2名>
<自立4名>

【地域との連携】

- ・白梅自治会と共催の行事は、今年度も新型コロナウイルスの影響で全て中止となった。
- ・地域交流ホールの貸し出しは、同様の理由で中止となった。
- ・清瀬市社会福祉法人でつくる地域貢献ネットワークはオンラインで開催され、1名が参加した。
- ・子育て支援に関する地域貢献は、令和3年度も新型コロナウイルスの影響で進展はなかった。

【職員の質の向上】

- ・新任育成に関しては、外部スーパーバイザー(以下SV)によるペアでの研修を2回と、新任職員のための研修もそれぞれオンライン形式で行った。新任職員の定着率は約92%であり、効果を実感できた。
- ・リーダーに関しては、リーダー会議を定着させ、情報共有をすることでホーム間の格差を小さくすること、連携を取りやすくすることに繋がった。
- ・三多摩地区の3施設と合同のリーダーシップ研修は、経験年数7年~8年のリーダー職員3名が参加した。オンライン形式であったので施設間の交流ができなかったのは残念だったが、コーチングを中心とした研修内容はすぐに実践に活かせるものであった。